

特集 議会を傍聴して

今回は、NPO法人いきものいんく代表 加藤 康大やすひろさんに9月議会を傍聴していただき、感想とご意見を伺いました。

議会を傍聴していかがでしたか？

こんなに具体的なことまで議論されているのかと正直驚きました。もつとたくさんの方に聞いて欲しいと思いました。

一般の方々の政治に対するイメージは正直良くない。「本当に仕事してんのかよ」とか、そういったイメージを払しょくする意味でも、もつともつと聞いてほしいと思いましたし、そのためにはどうしたらいいかを考えるべきではないでしょうか。

議会では、議会中継の導入に向けて協議をしています。まずは議会中継をすることで自宅にいても議会の様子がわかるようにできれば、関心を持っていただけたらと思います。

議場での議論は、その後が大事なのではないかと思います。議



NPO 法人いきものいんく 代表 加藤康大さん

います。議員はその回答を見て、あまり進んでいない場合は、次の手を考えて議会に臨むことができます。

例えば、一般質問で聞いたことを、次回またさらに重ねて聞くことができるということができますね。

そうですね。視点を変えたり、論点を変えたりして、長い年月をかけて実が結ぶということもあります。

市政に対するご意見はありませんか。

私は仕事柄、子どもや教育に関することに関心をもって見ているのですが、少子高齢化の中で、この分野が置き去りにされているのではと心配しています。高齢者福祉はもちろんだ大事ですが、それと同じく

らい教育という分野も大事なのではないかと。伊達市は他の市町村と比べて高齢者にかける割合と子どもにかける割合は同じなのでしょうか。私の自宅は壮瞥町なのですが、壮瞥町は子どもにかける時間やお金が多いように思います。

壮瞥町と伊達市の子どもの対するお金のかけ方が違いますか？ 具体的には、どういったところが違いますか？

壮瞥町は子ども向けの事業が豊富です。子どもが少なくなると中学校の部活動も数が限られていたりしますが、総合型地域スポーツクラブ「そうべつ地遊スポーツクラブ」とも連携しながら、子どもにスポーツをする場を提供しています。また、教育委員会主催の子ども向けの授業では例えば星空の観察会、子ども郷土史講座など自然や歴史について学ぶ学校外のイベントが土日や放課後に行われています。文科系の講座、例えば世良公則さんのイベントなどもありました。

また壮瞥町の子どもの運動能力がすごく伸びている気がします。

例えばA・L・Tを含めた4名で、幼児や小学1〜2年生を対象に「コーデイネーショントレーニング」を週に一度、約1時間やっています。その効果はとても高いと思います。

こうした取り組みは、大きな学校では難しいでしょうか。

大規模校では、担任同士のすり合わせや、様々な調整が出てくるので、なかなか壮瞥町のようにはいかないですね。

小規模校の良いところを大規模校にどうしたら取り入れていくことができるのか。こちらへんが大事なところですね。

自然環境の観点から伊達、洞爺の魅力はどこなところにありますか。

私は大学を出た後、ニューヨークランド、カナダと大雪山系で生きてきましたが、伊達、洞爺周辺の自然環境も素晴らしい。ここで住んでいる方は全く気付いていないと思います。本音が素晴らしい自然が身近にあります。湖、火山、山、海、川。

こんなに揃っているところは他にありません。この周辺の自然は敷居が低い、そして豊かです。未来を背負っていく子どもたち



来種の駆除でした。これにとっても違和感を覚えました。所詮人間が決めた法律でこっちは殺す、こっちは守る、すごくおかしいと思いつながら4年間仕事をしていました。

だから、こんな自然豊かなところに住んでいる子どもたちには、人間なんて何も偉くない、偉くないどころか、地球上にいる数千万種類といわれる生き物の中で一番しょっちゅうもない生き物が人間だよということ伝えるために「いきものいんく」を設立しました。

には「すつげーいいところで育っているんだよ。君たちは」と伝えたいし、伝えていきます。

「いきものいんく」を設立されたきっかけは何だったのですか。

私は2007年から4年間環境省にいました。野生生物関係の仕事でした。希少種や法律で守りましようと思われている生き物を調査したり保護したりする一方で、もつとも時間を使ったのが外

「いきものいんく」の環境教育とは。

「いきものいんく」のプログラムは、『子どもたちに考えさせる』というのが役割であり大きな特徴です。

例えば、川で泳いで「楽しいね」だけではない。どうして外来種を駆除するのかとか、人間の身勝手なところを必ず知ってもらいます。「それをやったから子どもたちがどうなるのですか？」とよく聞

かれますが、効果なんて全然わかりません。ちよつとでも視野が広がって、人間の都合だけしか考えない子どもにならないで欲しいなと思うだけ。それだけです。

戦争やテロによってたくさんの人が犠牲になっています。毎日のようにそんな報道があります。一方でどれだけの植物が焼かれて、どれだけの生物が生息環境を失っているかを誰も話そうとしません。「それっておかしなことではないの？」というようなことを子どもたちとまとめ、学習の中で話話しています。

今日は本当にいい勉強になりました。ありがとうございます。



広報常任委員会の阿戸委員長(左)と佐藤副委員長(右)